

令和8年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

小学校 図画工作科

改善の重点

- ① 題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、思いに合わせて工夫して表す過程を重視した指導計画を作成すること。なお、題材のねらいを児童と共有するための工夫を位置付けること。
- ② 学習活動や表現方法に幅を持たせるために、発想・構想や制作の場面での児童のつまづきを予想して、具体的な手立てを想定すること。

1 設定理由

小学校学習指導要領第2章第7節図画工作の第3「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。」と示されている。指導計画を作成するには、題材を通して育成を目指す資質・能力を明確にし、児童が学習の見通しをもち主体的に取り組み、学習の過程を振り返ることができるように構成することが重要である。

児童が思いに合わせて工夫して表すためには、実際に見たり触ったりするなどして様々な感覚を働かせることや、材料や用具の可能性に気付くことができるような活動を設定することが大切である。構想段階でのアイデアスケッチや制作過程の記録、意図や工夫を説明する機会を設けることで、児童が「どのように考え、工夫し、試行錯誤したか」を把握し、制作過程における一人一人の構想や表現のよさを適切に評価し励ますことが求められる。その際、評価規準と指導事項との整合性を図り、育成したい力を確実に身に付けさせることが重要である。

加えて、児童が学習の目的を理解できるよう、導入段階で題材のねらいを共有する工夫が必要である。そうすることで、児童は学びの方向性を理解し、表現や鑑賞に主体的に取り組むことにつながる。

また、「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージや価値をつくり出すことであり、個々の児童が個性を生かして活動できるよう、学習活動や表現方法に幅をもたせることが重要である。「A表現」においては、児童が自らの経験や思いを基に材料や用具、表現方法を選択し、表したい思いに合わせて工夫して表すことができるようにすることが大切である。その際、児童がつまづく可能性を想定し、具体的な手立てをあらかじめ位置付けておくことが必要である。例えば、アイデアが広がらない児童には参考資料や表現方法を試す活動を用意するなどの支援が考えられる。こうした手立てを講じることで、児童が自分で考え、自分なりの活動をつくり出すことにつながる。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ① 図画工作科で目指す資質・能力を児童に確実に育成するために、題材の指導と評価の計画を作成すること。その際、題材の目標と評価規準、各時間の学習活動と評価規準を記載すること。
- ② 学習活動や表現方法に幅を持たせるために、特に「A表現」における発想・構想や制作の場面での児童のつまづきを予想して、具体的な手立てを想定すること。

(2) 参考とすべき資料

- ① 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）
- ② 早わかり！題材計画の作成手順（～小学校図画工作第3学年「のこぎりザクザク生まれる形」を例にして）